

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
(令和 5 年 4 月～令和 5 年 9 月末時点)

調査実施機関名：北海道ユニットセンター

評価時点	令和 5 年 10 月 31 日
------	------------------

ア. 参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の
取組

(P) 計画 (D) 実施	目標：13 歳以降の調査の同意率向上！ 参加する保護者と子ども本人に調査の意義を伝える。必要な手続きを理解しやすく伝え、参加の意欲がある人を取りこぼさない工夫を行う。 Plan(P)1:参加児の調査参加へのモチベーション向上 ① 参加者限定 Web サイト内「オンライン市民講座」の情報拡充 自らが参加している調査から「何がわかったのか」を伝えて調査参加意欲を向上させるため、エコチル調査論文を子どもの理解度に合わせてかみ砕いた動画に編集し、「オンライン市民講座」として公開した（図 1）。加えて、以前より好評を得ていた One page summary の続編を作成し、紙媒体と合わせて Web で発信している。テーマにはエコチル調査論文から子どもが身近に感じるものを選択した。 ② 検査とイベントでの対面コミュニケーションの促進 10 歳詳細調査と小学 6 年生学童期検査は、多くの調査参加者と対面できる貴重な機会であった。調査終了時には子どもに向けて調査参加について口頭でのお礼に加えて、後から繰り返し確認できる手紙でも感謝を伝える工夫をした（図 2）。昨年に引き続き、3 地区で対面の運動教室を実施した。参加できなかった児へのフォローとして、自宅のできるトレーニングの動画も作成し Web で公開する予定である。旭川サブユニットでは昨年度に続きオンラインイベント（英会話）を行い、広く参加者にアプローチした。 P2: 参加の意欲がある人を取りこぼさないための取組 ① 質問票回収率向上に向けた取組 北海道ユニットセンターでは質問票発送 4 週間後のハガキやショートメール、電話など様々な方法で返送依頼を実施しているが、学年質問票の回収率は全国平均を下回っている。その原因として、北海道地区では小学校で健康記録が年度末にしか自宅に配布されない地区が多くあることが考えられた。夏に送られる質問票には答えにくいことを考慮して、年度末に質問票を再送して取りこぼさない工夫を講じた。
--------------------------	--

	② 13 歳以降調査への同意率向上に向けた取組 学童期検査会場で 13 歳以降調査への同意の勧奨を行ったところ、調査継続のために必要な手続きを参加者が誤解している様子が見受けられた。そのため、参加者の生の声を「13 歳以降調査ニュース」ハガキにまとめて、スピード感をもって発信し、意欲のある参加者が正しく手続きをできるよう工夫した（図 3）。小学 6 年生の対象者には通常の質問票とその他の郵送物（13 歳以降調査関連と学童期検査の資料）が立て続けに届くため、すぐにレスポンスができない参加者にとってはプレッシャーとなっていることが予想される。そのため、勧奨のツールにはハガキを採用した。
(C) 評価	P1:参加児の調査参加へのモチベーション向上⇒ 概ね達成できた ① 参加者限定 Web サイト内「オンライン市民講座」の情報拡充 ユーザーのサイト内の動きを分析すると、トップページからの直帰率は 40%程度で、過半数の参加者が複数のコンテンツを利用していることが伺える。また、期間内に視聴数が多かった動画コンテンツはエコチル調査の成果を分かりやすくまとめた「オンライン市民講座」であった。参加者のニーズに沿った更新ができていると判断している。 ② 検査とイベントでの対面コミュニケーションの促進 特に小学 6 年生学童期検査と対面でのイベント時には、参加者の 13 歳以降調査への同意状況を確認してから接触し、未同意のステータスの参加者には勧奨した。その結果、学童期検査では 75%、イベントでは 100%の継続同意を得た。 P2: 参加の意欲がある人を取りこぼさないための取組⇒ 一部達成 ① 質問票回収率向上に向けた取組 小学 5 年生質問票の発送時期を考慮した督促により、回収率は 21.6%上昇し、対象となった 1 学年分の回収率は 70%まで向上した。全国平均までは依然届いていないが、継続して向上の取組を実施する計画である。 ② 13 歳以降調査への同意率向上に向けた取組 9/21 時点での北海道ユニットセンターの 13 歳以降調査への参加に関して、配信対象者数を分母とする同意率は 42.8%と、全国平均を 0.3%上回っているのに加えて、不同意率は 7.6%と全国平均を 2.4%下回っている。これは、13 歳以降調査に関して、現時点で 40 歳までの同意を決めるわけではないこと、アプリをインストールしただけでは同意が完了していないことなど、基本的で正確な情報が参加者に伝わるようタイミングよく促した工夫の結果である。

(A) 改善	P1:参加児の調査参加へのモチベーション向上 参加者のニーズと関心にさらに応えられるよう今後もコンテンツの拡充を目指す。一方で、アンケートでは「授業でも液晶画面を見る機会が増加し、その機会を最低限にしたい」といったスクリーンタイムの増加を懸念する声も寄せられた。紙媒体の One page summary や「エコチル通信」、効果的な対面での企画なども含め、多種類の伝達手段を効果的に駆使して参加者の意欲を高めることを心掛ける。 P2:参加の意欲がある人を取りこぼさないための取組 来年度以降も、質問票の発送時期による回答の難しさや、13 歳同意に関する手続きの難しさは継続して発生すると予想されるため、調査への参加継続が容易になるような情報発信や工夫に努める。P1 と合わせて本来の調査参加意欲を高め、長期的な視野で質問票回収率に繋げたい。
--------	---

イ．成果の社会還元の実施	
(P) 計画 (D) 実施	P3:Web 媒体を利用して成果を広く社会に還元する R3 年度から Web サイト内「オンライン市民講座」で、参加児の年長者(10~11 歳)が理解できる難易度で動画シリーズ 2 本を作成・公開してきた。R5 年度は「オンライン市民講座」のコンテンツを追加し(図 1)、中心仮説論文 1 本を含む 2 本の公開を行った。 さらに、幅広い一般市民にもエコチル調査とその成果を知ってもらうため、R4 年度札幌市環境白書にて調査の概要・進捗と成果を報告した。同白書の情報は今年から札幌市 Web ページでも一般公開されている。また、「エコチル通信」の記事として、「北海道子どもの生活実態調査」を取り上げ、北海道ユニットセンター Web ページにて 9 月に先行公開した(12 月に紙媒体でも郵送予定)。この調査は、エコチル調査参加者と同世代の子どもを対象として、北海道大学と北海道・札幌市が実施した調査であった。記事の作成は、各行政担当者と事前打ち合わせした上で情報発信を形にした(図 4)。 P4: ユニットセンター成果発表体制の強化と、次世代の研究者育成 昨年度以前より北海道ユニットセンターでは、成果発表担当教員と事務員の成果発表支援チームを作り、成果発表予定課題リストを作成・管理して各課題の執筆責任者へ定期的な進捗確認やユニットセンターとのミーティングを随時行って早期の論文文化を図っている。R5 年度も(1)北海道ユニットセンターからの成果発表論文数増加、(2)大学院生の教育の充実を目標に引き続き実施した。また、

	課題の執筆責任者とユニットセンター教員が指導しながら、大学院生や若い研究者が課題執筆に中心的な役割を担うことで次世代の研究者育成を目指した。
(C) 評価	P3: Web 媒体を利用して成果を広く社会に還元する ⇒ 一部達成 エコチル調査の成果を分かりやすくまとめた「オンライン市民講座」は、他の動画コンテンツの中で期間内の視聴数が多かった。広報に関する Web アンケートを集計した結果、「子どもに調査結果を見てどう考えるかという経験もさせたいので、これからもわかりやすく成果を公表してほしい」「Web や広報誌で調査結果を知ることが参加している実感がわくのでありがたい」等の好意的な感想が多く、参加児と保護者に成果を伝えることで調査参加へのモチベーションを向上することができた。参加児の年齢が上がってきたことに伴い、学術的な内容に関心が高まっていると考えられる。 P4: 成果発表体制の強化と、次世代の研究者育成 ⇒ 概ね達成できた R5 年 4 月～9 月で 2 本の論文受理があった（中心仮説に関わる課題 1 本を含む）。うち 1 本は筆頭著者が大学院生で、学位論文の主論文とする予定である。さらに今年度は 2 名の若手研究者のデータ利用申請を行っており、次世代研究者の育成も増加している。北海道ユニットセンターでは、学童期検査等に北海道大学・日本赤十字北海道看護大学の学部生・大学院生を雇用し、調査の推進に協力を得ている。様々な学問分野に携わる学生が疫学調査を通して、実地で学ぶ機会となっている。将来的に、研究面でも協力を進めるなど、環境保健分野の研究を促進する可能性を大いに感じている。
(A) 改善	P3: Web 媒体を利用して成果を広く社会に還元する 今後、ますます行政との連携を強化し、行政のイベントへの協力を通して、一般市民への成果還元を実施していきたい。社会還元が進むことで、参加者がエコチル調査への参加意義を再確認し継続へのモチベーションが上がるような好循環を作れるように努める。 P4: ユニットセンター成果発表体制の強化と、次世代の研究者育成 北海道ユニットセンターでは、R5 年度から教員の体制が大きく変わり、リクルート時から経験を蓄積してきた複数の教員が任期を終えた。13 歳以降調査のユニットセンター体制を維持する上でも、成果発表を継続的に支援するとともに、優れた研究成果を持つ若い研究者を育て、安定した運営を目指したい。



研究者自ら、声とスライドで
最新の論文をやさしく解説



図1：オンライン市民講座

学童期検査ありがとうお手紙

検査へのご協力を ありがとうございました



本日は、エコチル調査小学6年生学童期検査に協力していただき、本当にありがとうございました。

エコチル調査は、全国各地から10万人、そのうち北海道からは、8362人の方々が参加をしてくれています。

この調査は、みなさんがお母さんのおなかの中にいる時からみなさんの大切な試料や情報を提供してもらい、健康にはどのようなことが関係していて何が大切なのかを調べ、未来の子どもたちが安心安全に暮らせるように日々研究を行っています。

みなさんが中学生になっても、エコチル調査は続いています。これまでと変わらず、エコチル調査を応援してくださると、とても嬉しいです。

勉強や部活動などで忙しくなると思いますが、これからも元気に頑張ってくださいね。



エコチル調査 北海道ユニットセンター
スタッフ一同

このファイルには下記の書類が入っております。

1. 謝礼のクオカード（5000円分）
2. ボランティア活動証明書（お名前入り）
3. 身体測定記録(TANITA)

【※注意】筋肉量は、体重から脂肪量と推定骨量の重さを引いた数値で、

内臓や血液などの重さも含まれます。参考値としてください。

4. パソコンを使用した検査の補助資料
5. 追加調査同意書の控え（追加調査にご参加希望の方のみ）



エコチル調査 ◆ 北海道ユニットセンター

TEL 011-706-4747（受付時間 平日9時～17時）
Email ec-hokkaido@cehs.hokudai.ac.jp



図2:学童期検査で配布する感謝のお手紙

エコチル調査 13歳以降調査 ニュース



皆さま、
エコチル調査は
「13歳以降も続く」ということは
ご存知ですか？

詳細はこちら



or



皆さまからいただいた“お声”をご紹介します

手紙が送られてきた時点で**自動的に継続されると思っていました！**



調査継続について【同意する/同意しない】をお尋ねしております。お手数ですが意思表示は参加者ポータル上でご回答をお願いいたします。

親は続けたら良いと思っていますが子どもの調査が40歳までつづく聞き**「そんなにできるかな。」と迷っています。**



まずは18歳までの調査についてご検討ください。
また、お子さまが16歳の時にも確認をさせていただく機会があります。(調査はいつでもやめることができます。)

スマホに**アプリまで入れたので同意したつもりになっていました！**



エコチル調査



アプリをダウンロードしていただきありがとうございます！
ご同意の登録ボタンを押していただき、続けて表示される【同意者限定アンケート】へご回答ください。あともう一步です。

●本状と行き違いの場合は何卒ご容赦ください

スタッフが学童期検査会場で
聞き取った生の声から
よくある思い違いをピックアップし、
“落とし穴”への気づきを促す

図3:「13歳以降調査ニュース」のハガキ

ニュースレターの 一部をWebで先行公開

編集部が 聞いてみました!

2021年に「北海道子どもの生活実態調査」が実施されました。調査は北海道内の約3万人の親子を対象として行われました。今回は、この調査を共同で行い、子どもの貧困など教育福祉を研究する専門家に調査結果についてお話をうかがいました。

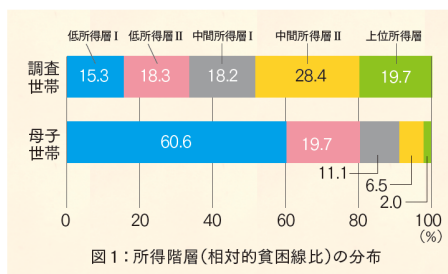


北海道大学大学院教育学研究院附属
子ども発達臨床研究センター
松本 伊智朗先生

Q1. 北海道における子育て中の家庭の経済的な状況を教えてください。

全体的に、所得格差がある中で子育てが行われていることが調査から示されています。図1は、この調査全体における各所得階層の占める割合を示しています。

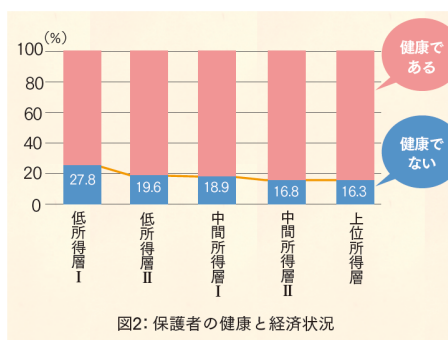
「低所得層Ⅰ」は、厚生労働省が貧困率の推計を行う際に用いる基準を下回る(1.0倍未満の)所得水準に該当します。今回の調査対象集団の中での割合が15.3%と、少ないことがわかります。そして、世帯のタイプにも注目してみると、母子世帯では「低所得層Ⅰ」が大半を占めており、経済的に厳しい状況に置かれていることがうかがえます。



Q2. 経済的に苦しい状況だと健康にも良くない影響があるのでしょうか？

この調査から、所得(が低いこと)と健康(でないこと)の間には関連があるようです。図2に示す通り、所得が低いほど、「健康である」と答えた割合が低く、そうではない人(「通院している」人や「通院していないが体調が悪い」人)の割合が多いことがわかりました。

また、「健康でない」保護者のうち、所得が低い層ほど、必要な医療受診を控えた経験のある人の割合が多いこともわかりました(ただし、子どもの医療受診については保護者ほどはっきりした差がなく、子どもの受診を優先していると推測されました)。経済的に苦しい世帯の子どもの心身の健康と、その健康を守っている保護者自身の健康を、社会全体で守る必要があります。



Q3. 困難を抱えている家庭の支援にはどのようなものがありますか？

北海道では、「相談」「教育」「生活」「保護者の就労」「経済」の5つの柱にそって子どもの貧困対策を進めています。道のホームページで子育てに関する相談窓口やいろいろな支援制度についてお知らせしています(*1)。また、家族や家庭について悩んだときに保護者もお子さんとも気軽に相談できるよう、LINEを活用した相談窓口「親子のための相談LINE」(*2)が開設されました。さらに、札幌市は独自に「さっぽろ子育てAIチャットボット」(*3)を導入し、子育て情報に関する質問に対して適切な情報を提供しています。



*1 北海道保健福祉部
子ども政策局



*2 親子のための
相談LINE



*3 さっぽろ子育て
AIチャットボット



調査結果をまとめた
リーフレット
「北海道・札幌市のこどもと
家族の生活(2023年2月)」を
こちらからご覧いただけます。



その他の主な相談窓口

・旭川市子ども総合
相談センター



・児童相談所虐待対応ダイヤル
TEL: 189(24時間365日、通話料無料)
・札幌市子どもの安心ホットライン
TEL: 011-622-0010(24時間365日)

北海道、札幌市、旭川市の
担当窓口と連携した情報提供

図4:「エゾチル通信」の記事

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
(令和 5 年 4 月～令和 5 年 9 月末時点)

調査実施機関名： 宮城ユニットセンター

評価時点	令和 5 年 10 月 25 日
------	------------------

ア. 参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
(P) 計画	宮城ユニットセンターでは参加者の調査参加へのモチベーション維持、質問票回収率の維持・向上への取り組みとして、以下の 3 点を目標とした。 <u>P1：参加者との双方向コミュニケーション</u> P1-1 オンラインセミナーの開催（小児科・精神科・眼科・歯科など） ・事前・事後アンケートを用い双方向性を担保する。 ・ライブ配信に加え、Youtube の限定公開でオンデマンド配信とする。 P1-2 子どもだよりを発行し、子どもたちとのコミュニケーションを図る。 <u>P2：参加者への定期的な成果のお知らせ</u> P2-1 オンラインセミナー開催時に成果報告を行う。 P2-2 ユニット情報誌「MUC だより」で成果報告を行う。 P2-3 SNS, HP を活用し成果をお知らせする。 P2-4 成果をニュースレターにまとめ、質問票に同封する。 <u>P3：謝礼やリマインド方法の工夫</u> P3-1 対面調査時に質問票の直接受け取りや返送を依頼する。 P3-2 子どもアンケート返送時に子ども宛のありがとうハガキを返送する。 P3-3 質問票の送付は都度 X (Twitter)でのお知らせし返送をお願いする。 P3-4 13 歳調査のリマインドのための独自ハガキを作成する。
(D) 実施	<u>D1：参加者との双方向コミュニケーション</u> D1-1 オンラインセミナー開催（2023 年 5, 7, 8 月）(図 1) ・セミナー参加者数は毎回 20－30 人であった。 ・セミナー内容への事前質問（Google form）には毎回講師への質問が 5－10 件寄せられた。また、セミナー中の質疑応答では事前質問への回答および新規の質問も受け付け、活発なディスカッションとなった。 ・事後アンケートの回答を図 2 に示した。 ・セミナー内容はライブ配信と Youtube の限定公開の準備が完了している。 D1-2 ユニット情報誌「MUC だより」に添付した冊子（エコチルキッズ）で、エコチルに関するクロスワードパズル（図 3）を用いたクイズを行った。また、好きな本についてのアンケート調査を行った。

	D2：参加者への定期的な成果のお知らせ D2-1 オンラインセミナー開催時、参加者に対し、講演前にエコチル調査の紹介と、講演内容と関連するような近年のエコチル成果を紹介した。 D2-2 「MUC だより」で成果報告を行った。また「論文ができるまで」という特集を組んで、成果物への興味を引く内容を掲載した（図 4）。 D2-3 成果をお知らせするため、X (Twitter)での随時掲載を行っている。HP は今年度改定し、より参加者が成果を見やすい形を工夫している（年末新規改訂に向けて準備中（図 5））。 D2-4 質問票に同封するための成果をニュースレターにまとめた（図 6）。 D3：謝礼やリマインド方法の工夫 D3-1 対面調査予約時に質問票の返送をお願いし、調査会場での直接受け取りも行った。また対面調査時にも質問票未返送の方には返送を依頼した。 D3-2 子どもアンケート提出時にありがとうハガキを返送した（図 7）。 D3-3 質問票の送付はハガキ、X (Twitter)で周知し返送をお願いした（図 8）。 D3-4 13 歳調査のリマインドのための独自の圧着式ハガキを作成した。まず開けてもらえるようにイラストやポイントのお知らせを工夫した（図 9）。																	
(C) 評価	C1：参加者との双方向コミュニケーション ・エコチルセミナーの事後アンケート調査（図 2）では、満足(81%)、やや満足(19%)と非常に好評だった。また、エコチル調査参加者は全体の 38%、「エコチル調査を事前に知っていた」と答えた人は全体の 50%、「知らなかった」と答えた人は 12%だった。参加者との双方向コミュニケーションのみならずエコチル調査を知ってもらう機会としても貴重であると考えた。 ・クロスワードクイズ（図 3）は新しい取り組みだったが、対面調査に来た子どもたちに好評だった。好きな本についてのアンケート結果は現時点で 9 件寄せられており、次号の「エコチルキッズ」に掲載予定。 C2：参加者への定期的な成果のお知らせ エコチルセミナーや対面調査の際に、どのような成果が出ているか知りたいという声を多く頂戴していたことから、今年度、成果報告に特に力を入れた。現時点で質問票回収率や対面調査参加率への直接効果は不明であるが、成果報告のあり方についても参加者の皆さんへのアンケートや対面調査時の聞き取りなど、双方向コミュニケーションをとって行きたいと考えている。 C3：謝礼やリマインド方法の工夫 今年度学童期検査来場者は質問票回答率も高かった。対面調査後に質問票を提出している参加者も多く、対面調査時や予約時の声掛け、ありがとうハガキ、X でのリマインドなどが功を奏した可能性がある。 小学校6年生学童期検査と質問票提出率の関係 <table><thead><tr><th>項目</th><th>件数 (概数)</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>質問票のみ提出</td><td>250</td><td>←この層に向けて対面調査への参加をお願いする</td></tr><tr><td>学童期/質問票 (対面前)</td><td>250</td><td rowspan="2">学童期検査に来ている人は質問票の回答率も高い 対面調査時に返送をお願いした効果も出ている</td></tr><tr><td>学童期/質問票 (対面後)</td><td>250</td></tr><tr><td>学童期のみ参加</td><td>250</td><td>←この層に向けて質問票の返送を対面調査時をお願いする</td></tr><tr><td>質問票・学童期ともに未</td><td>750</td><td>←最終的にこの層を減らす！</td></tr></tbody></table>	項目	件数 (概数)	説明	質問票のみ提出	250	←この層に向けて対面調査への参加をお願いする	学童期/質問票 (対面前)	250	学童期検査に来ている人は質問票の回答率も高い 対面調査時に返送をお願いした効果も出ている	学童期/質問票 (対面後)	250	学童期のみ参加	250	←この層に向けて質問票の返送を対面調査時をお願いする	質問票・学童期ともに未	750	←最終的にこの層を減らす！
項目	件数 (概数)	説明																
質問票のみ提出	250	←この層に向けて対面調査への参加をお願いする																
学童期/質問票 (対面前)	250	学童期検査に来ている人は質問票の回答率も高い 対面調査時に返送をお願いした効果も出ている																
学童期/質問票 (対面後)	250																	
学童期のみ参加	250	←この層に向けて質問票の返送を対面調査時をお願いする																
質問票・学童期ともに未	750	←最終的にこの層を減らす！																

(A) 改善	A1 : 来年度に向け、対面・オンラインの両方をうまく組み合わせ、今年度好評だったセミナーを継続し、さらに双方向コミュニケーションを推進する。 A2 : チーム内で研究を推進する仕組み作り（社会還元取り組み参照）を行い、成果を上げる。その上で HP 改訂、X 以外の SNS への投稿、ネット記事やプレスリリースの多用などで成果を還元する。 A3 : 参加者が参加しやすい対面調査の形態への変更（集団調査）、対面調査会場やイベント時の質問票回収ポストの設置、これまでの労をねぎらう形で謝礼の返送を含むリマインダの工夫を行う。
--------	--

イ. 成果の社会還元の取組

(P) 計画	P1 : エコチル調査の認知度を上げるためのメディア使用 P1-1 SNS やネット記事を用いてエコチル調査と成果について周知する。 P1-2 メディアを利用してセミナーなどを積極的に開催する。 P1-3 大学広報との連携を強化する。 P1-4 各種イベントで科学コミュニケーションを図る。 P2 : 社会還元のための研究チーム力強化 P2-1 Digital transformation (DX) を推進し、迅速な研究成果創出を目指す。 P2-2 エコチル研究チームとのプログ्रेसミーティングを定期開催する。 P2-3 成果データベースを構築する。
(D) 実施	D1 : エコチル調査の認知度を上げるためのメディア使用 D1-1 X (Twitter) で成果 4 件を分かりやすく紹介した。4 件のインターネット記事で成果を紹介した。 D1-2 エコチルセミナー（図 1）を、参加者への郵送の他、関連医療機関のポスター貼付、X (Twitter)、HP での周知、河北新報ウィークリーで案内し、一般の方も参加可能とした。 D1-3 大学広報との連携でプレスリリースを 6 件行った。インターネット記事の取材時には、広報を通じて記者とのリスクコミュニケーションのポイントや記事内容のチェックなどを細部にわたり行ってもらった。 D1-4 東北大学医学部オープンキャンパスで科学コミュニケーションを図った。オープンキャンパス全体の来場者 5,550 名のうち、エコチル調査のブースには 604 名が来場し、成果発表ポスターなどに高校生たちが非常に興味を持って質問をしてくれた。MUC だよりやエコチル調査パンフレットを渡しエコチル調査の説明も行った（図 10）。 D2 : 社会還元のための研究チーム力強化 D2-1 DX を推進するため、東北大学で取り入れている Google workspace を活用した。Workspace 内では、東北大職員アドレスのみでの closed コミュニケーションが可能であり、Cloud ベースのオンラインツールを汎用している。一例として、Google chat という機能を使用して、研究テーマ別のチャットグループを作成し、研究に関する業務の効率化、円滑化を進めている。また、Google site（図 11）というポータルサイトを作成し、日常で使う資料や、ウ

	エブサイトへのリンクを簡単にできるようにしている。成果報告のためのさまざまな手続きもチームで分かりやすく共有し業務の効率化を行っている。 D2-2 毎月1回、大学院生およびエコチル調査関係研究者、今後エコチル調査研究に興味のある東北大学病院の小児科医などで一同に会し、研究に関するプログレスミーティングを開催している。出席者が現在の研究状況を報告し、統計解析法の検討や論文化の際のポイント、新規研究課題の創出などについて、活発に議論を行っている。それ以外は上記のチャットグループ上で日々、研究・論文内容のディスカッションを行っている。 D2-3 ファイルメーカーを使用し、これまでの成果をすべて整理し取り出せる成果データベースを構築した(図12)。
(C) 評価	C1: エコチル調査の認知度を上げるためのメディア使用 ・X (Twitter)上で成果報告を行うと、1000人以上のインプレッションが提示される。また、Yahoo ニュースなどのネット記事はさまざまなところで拡散され、研究成果が社会還元されている。大学広報によるリスクコミュニケーション指導が入るため、記者との間で適切なコミュニケーションが取れ、論文にもとづいた正確な記事が配信されている。 ・エコチルセミナーにはエコチルについて知らなかった一般の方も参加していたため成果の社会還元に寄与した。 ・オープンキャンパスのエコチルブースは反響が大きく、高校生たちとのディスカッションも盛況で、科学コミュニケーションに成功したと考える。 C2: 社会還元のための研究チーム力強化 ・論文作成は Google document で共有することで、同時にオンラインで複数人で修正可能であり、メールでの頻回の調整が不要になり、論文完成までの時間が短くなり、緻密な内容調整も可能となった。 ・プログレスミーティングは2022年10月ごろから開始したが、このミーティングを契機に既に5本の論文が投稿され(2本は既に受理)、2本の論文が投稿準備状態となっている。 ・ファイルメーカーで成果のデータ化システムを構築したことで、過去の論文内容の検索が容易になり、成果に関するさまざまな問い合わせに大して最短時間で対応できるようになった。
(A) 改善	A1: エコチル調査の認知度を上げるためのメディア使用 ・現在大学広報と連携し、TVによる宮城ユニットセンター取材やラジオ出演について検討している。また、各サブセンターの地元の新聞へのコラム執筆なども検討中である。 ・Facebook, Instagram など、X (Twitter)以外の SNS 利用も検討中である。 A2: 社会還元のための研究チーム力強化 来季は大学院生、教員の増加が見込まれるため、東北大 Google workspace をフル活用し、効率的で風通しの良い研究環境をさらに整備する予定である。

図1 エコチルオンラインセミナー 案内

2023 エコチルオンラインセミナー

一緒に子どもの心身の健康について考えてみませんか？

各回先着
50名
参加費無料

5/13 (土) 13:00-14:00
子どもが朝起きられない、それって起立性調節障害？
高橋 怜 先生 (りょうべビー＆クリニック)

7/ 8 (土) 13:00-14:00
正しい性の知識とは？HPVワクチン接種はなぜ必要？
志賀 尚美 先生 (東北大学病院産婦人科)

8/19 (土) 13:00-14:00
学校に行きたくないと言われたら？
大塚 達以 先生 (東北大学病院精神科)

10/14 (土) 13:00-14:00
今日からできる 子どもの近視予防
中澤 徹 先生 (東北大学病院眼科)

12/ 2 (土) 13:00-14:00
**あなたにもできること あなただからできること
大切な命を守る胸骨圧迫とAED**
小泉 沢 先生 (宮城県立こども病院)

2024 1/20 (土) 13:00-14:00
**歯並びが気になりますか？
不正咬合に関する正しい知識**
金高弘恭 先生 (東北大学大学院歯学研究科)

開催方法 オンライン開催 (Zoom)

参加方法 右記QRコードまたは、URLよりお申込みください

【セミナーに関するお問合せ】 ecochil_seminar@egrc.med.tohoku.ac.jp

東北大学大学院歯学研究科 環境歯学部総合研究センター
エコチル調査宮城ユニットセンター

【HP】 <http://www.ec-muc.med.tohoku.ac.jp/>
【X (twitter)】 @ecochil_miyagi

<https://forms.gle/SgLYPo6ZiBUf7kpM6>

図2 セミナー事後アンケート (一部抜粋)

第1回

子どもが朝起きられない、それって起立性調節障害？



ハガキに書いたことや、セミナー中の質問にも丁寧に答えていただいて、とても有意義なセミナーでした。



ずる休み？と感じることも多かったのですが、日頃から水分をあまり摂らないことや、自分の部屋でゴロゴロすることが好きで運動をあまりしなかったことも原因かなと改めて思いました。

第2回

正しい性の知識とは？HPV ワクチン接種はなぜ必要？



短い時間の中で大事なポイントがすごくまとまっていたお話でとても良かったです。



子ども達に教えるために知識を知り、子ども達と考えながら性教育をすることが大切だということを勉強する機会になりました！



性教育に対してポジティブになりました。



世界的に日本が性教育で遅れているというのもわかっていたので、世界での教育がどうなっているか、ジェンダーレスなどの性に関して踏み込んだお話も聞けたらよかったです。

第3回

学校に行きたくないと言われたら？



子供が男の子なのであまり学校でのことを話さず、どうしたらいいか分からなかったのですが、話す練習、聴く練習が必要ということをお聞きしなると感じました。



最後の質疑応答は、生の声のQ&Aでしたので、我が家のケースに当てはまる内容もあり非常に良かったです。



講義中に質問にお答えいただきとても気持ちが軽くなりました。親以外の周りの人の力を借りること、子どもとの楽しみな予定を約束すること、交換日記などをやってみること、今後の生活にぜひ取り入れていきたいと思います。

第4回 今日からできる 子どもの近視予防



子どもから『どの程度続けてゲームしていいのか？休憩時間はどのくらい必要なの？休憩の遠くみるってどの程度で、どのくらい見続ければいいの？』と聞かれる機会がありましたが、今回適切な答えを近視の仕組みから学ぶことができました。



学校では学ばないことを今回は理解できました。ぜひ子どもたちにも、この動画を配信してほしいと思いました。小学生は、ひとり一台クロムブックを仙台市より配布されて、学校で保管しているので、授業でとりあげてほしいです。



子供と一緒に見ました。自分がひどい近眼にも関わらず、この手の情報を勉強したことがなく、親子共々、大変勉強になりました。子供も生活での注意点など、先生の話を書いて、(わたしがいうより)納得がいったのではないかと思います。強度近視の緑内障などになる確率を知り、このような近視に関する情報はもっと学校などでも取り上げてほしいと思いました。

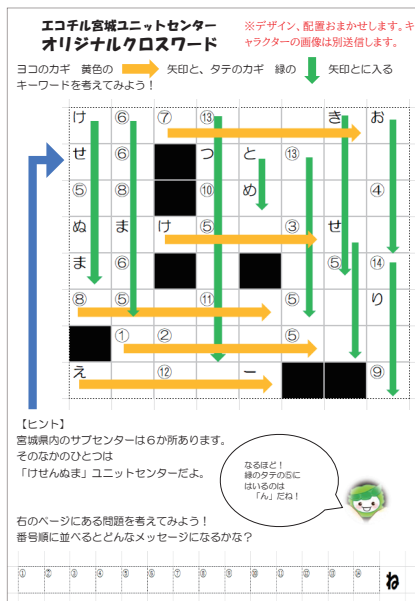


図6 成果報告ニュースレター

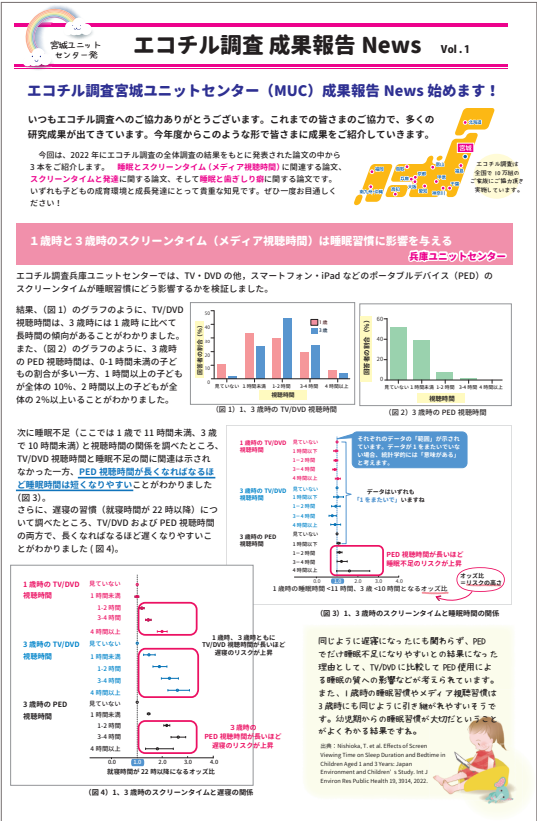


図7 子どもアンケートへの子ども宛ありがとうハガキ



図8 ハガキ、X（Twitter）を用いた質問票送付のお知らせ・返送のお



エコチル調査

13歳以降の調査が始まります

これまでの調査と何か変わるの？

質問票は、Webで回答していただく方法に変わります

パソコンやスマートフォンでご回答いただく「WEB質問票」に変わります。お子さんと保護者の方に、それぞれ1～2ヶ月に1回の頻度でご協力をお願いする予定です。1回あたりの回答時間が5分から10分程度なので、これまでより短い時間で回答いただけます。

専用アプリを導入します

エコチル調査参加者専用のアプリをご利用いただけます。調査に関するお知らせなど、アプリの通知でお知らせいたします。

謝礼が、Quoカードから、ポイントに変わります

WEB質問票やアンケートにお答えいただくと、謝礼として専用のポイントを発行いたします。このポイントは、ネットショップ等のポイントに交換して使用することができます。13歳以降は、お子さんがWEB質問票に回答した場合は、お子さんにもポイントを発行します。

エコチル調査のこれまでとこれから

エコチル調査は、みなさまのご協力により、多くの成果が報告されており、すでに国のガイドライン(指針や指標)の決定に貢献した事例もあり、社会的に貢献度が高い事業として認められました。13歳以降も、一人でも多くのおみなさまに、引き続き調査にご協力いただけることを願っております。

2010年	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32・・・
HAPPY BIRTHDAY!	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳・・・

参加に同意された後でも、途中でやめたい場合は、いつでも取りやめることができます。一時的にお休みすることも可能です。

エコチル調査の継続が決定

今回の同意期間

現在ご協力いただいている同意期間

エコチル調査成果の社会還元一例

内閣府食品安全委員会

『評価書 鮎』

『アレルギーを含む食品 卵』

『食物アレルギーの診療の手引き2020』

『食物アレルギー診療ガイドライン2021』

『アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2021』

国立成育医療研究センター

『妊娠中の体重増加目標(妊娠前BMI別)』

医学病院

『乳幼児発達検査スクリーニング質問票』

乳や養育者が質問に回答することで子どもの発達をはかる検査書です

ASQ-3 乳幼児発達検査 スクリーニング質問紙

エコチル調査

13歳以降の調査が始まります

これまでの調査と何か変わるの？

質問票は、Webで回答していただく方法に変わります

パソコンやスマートフォンでご回答いただく「WEB質問票」に変わります。お子さんと保護者の方に、それぞれ1～2ヶ月に1回の頻度でご協力をお願いする予定です。1回あたりの回答時間が5分から10分程度なので、これまでより短い時間で回答いただけます。

専用アプリを導入します

エコチル調査参加者専用のアプリをご利用いただけます。調査に関するお知らせなど、アプリの通知でお知らせいたします。

謝礼が、Quoカードから、ポイントに変わります

WEB質問票やアンケートにお答えいただくと、謝礼として専用のポイントを発行いたします。このポイントは、ネットショップ等のポイントに交換して使用することができます。13歳以降は、お子さんがWEB質問票に回答した場合は、お子さんにもポイントを発行します。

13歳以降の調査開始までの流れ

START

13歳以降の調査(18歳まで)にご協力をお願いします

NO YES!

保護者のみなさま全員

アプリにログインして回答を選択してください

同意してQuoカード500円をGET!

2023年11月15日まで同意して「期間限定プレ質問票」をGET!

引き続き

12歳までの調査にご協力をお願いいたします

調査の説明書 4種類

2023年6月にお届け

保護者用

アプリログイン用のアカウント情報

お手元に資料がない方は宮城ユニツセンターまでご連絡ください

12月ころから贈次(毎年度順でお届けします)

① Quoカード500円

② お子さんのアプリログイン用アカウント情報

さらに

11月15日まで同意した方限定の期間限定プレ質問票に回答して500ポイントGET!

2024年4月

13歳以降の調査 スタート!

資料がお手元にない方は宮城ユニツセンターまでご連絡ください

同意書の回答アプリのインストールはこちらから

iPhone用 Android用

東北大学大学院医学系研究科 環境医道伝医学総合研究センター内

エコチル調査宮城ユニツセンター

T 980-8575 宮城県仙台市青葉区二丁目2-1

Tel 022-717-8082 E-mail ec-muc@egrc.med.tohoku.ac.jp

HP http://www.ec-muc.med.tohoku.ac.jp/

X @ecochill_miyagi

図 10 東北大学オープンキャンパス 2023



図 11 研究業務の効率化のためのポータルサイト



図 12 研究成果データベース（ファイルメーカー）

